

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

# 日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設された基督教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉任 160号

## 「耳 と 口」

(マルコによる福音書7章31～37節)

有馬 歳弘



私は、池の上キリスト教会牧師であった山根可式牧師に、関東アシュラムにお誘いを受け出席をしましたのが、今日まで続いているきっかけです。最初、アシュラムと言う響きに、説明はされても違和感を持ちました。その上、「開心、静聴、充滿、献身、奉仕」の骨格とも言うべき字に接しては、堅苦しい気がして大変緊張したことを思い出します。しかし、プログラムに入っていくと多くの兄弟姉妹と打ち解けた喜びを頂きました。

山根牧師とは韓国釜山のアシュラムや東北アシュラム等に連れて行って頂きました。朝、祈りの時、「今日、与えられた言葉は何ですか」と必ず尋ねられ、分かち合いをしました。靈的に恵みをいただく時でした。この出会いが大きな最初になっています。

アシュラムでは「聴く」生活が大切にされます。マルコによる福音書7章31節以下に「耳が聞こえず舌が回らない人」のことが記されています。主イエスはここに迂回して来られたようです。この人に会うためであるかのようにです。ある方がこの人は全く聞こえなかったのではない、話すことが出来なかったのではない、と説明しています。完全に聞こえない、声が出ないのも気の毒です。しかし、聞こえているのにはっきりしない、話したいのに言葉にならないのももどかしいものです。中途半端なのです。このことは、私たちのことでもあるのです。神の言葉を聴こうとするのですが、自分の声が瞑想の世界を占領して、神の声を聞き取りにくくするのです。つまり、聖霊の働きに身を寄せることができないのです。更に、信仰の言葉を語ろうとするのですが、語れない。愛の言葉を語っても届かないのです。神様を讃美する言葉が貧しくなっているのです。

主イエスは力を込められました。『エッフアタ』。この時の主イエスの声を忘れることができなかったのでしょう。元の言葉そのままを残しています。良く話させることが大切と言われます。十分に吐き出させることで、すっきりするということも確かです。しかし、主イエスは良く聴く耳があって、良く語ることができるっておられるようです。信仰は聞くことから始まるのですから。

この人は人々に語ることを口止めされました。この奇跡を広告のように、宣伝することは必要ないのです。しかし、彼の中に起こった事実は、彼の内面を破るようにして真実を語り始めます。主イエスとの出会いから始まった、キリスト者の交わりはいいものです。

(日本基督教団青梅教会牧師)

# 霊 想

- 詩46篇 -



「力を捨てよ、

わたしは神」

東京新生教会

横山 義孝

スタンレー・アシラムのねらいとするポイントが、主のみ旨への魂の全き明け渡しにあります。信仰による無条件降伏です。そこに聖霊の充満と平安と喜びの生涯が約束されるからです。詩篇第46篇は、南王国ユダが絶対絶命の困難にあたって、全能の神のみ力に、信仰によって全き明け渡しをもって信頼を決断した時、一夜にしてアツシリアに勝利した恩寵の歴史的出来事が背景になっていると云われます。

A. 全能の神への不動の信頼(2、4節)「神はわたしたちの避け所、わたしたちの砦、苦難の時、必ずそこにいまして助けて下さる。」(2節)苦難のとき、まさにその時に発見される神の力ある助けです。北イスラエルは既にアツシリアによって滅ぼされ、残されたのは南ユダ王国のみでした。オリエント諸国に絶対的

な覇権を欲しいままにしようと襲い掛る敵に対してヒゼキヤ王とその国民はなす術なく主のみ前にひれ伏すのみでした。敵将ラブ・シヤケが口穢く罵り降伏を迫る言葉を「ヒゼキヤ王はこれを聞くと衣を裂き、粗布を身にまといて主の神殿に行った。」彼は家臣たちを預言者イザヤに遣わし、「生ける神をのしるために、その主君アツシリアの王によって遣わされて来たラブ・シヤケのすべての言葉を、あなたの神主は恐らく聞かれたことであろう。ここに残っている者のために祈ってほしい。」(イザヤ書37の1、4)と切願したのでした。イザヤはこれに答えて、「恐れではならない。見よわたしは彼の中に霊を送り、彼がうわさを聞いて自分の地に引き返すようにする。彼は倒されると主の言葉を伝えたのです。すると「主の使いが現われ、アツシリアの陣営で十八万五千人を撃つた。朝早く起きてみると、彼らは皆死体となっていた(同37の36)と。」「恐れてはならない。落ち着いて今日あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」(出14の13、14)のモーセに与えられた主の言葉が感謝をもって想起されます。

B. 喜びを約束する大河とその流れ  
「大河とその流れは、神の都に

喜びを与える。いと高き神のいます聖所に。神がその中にいます都は揺らぐことがない。」(同5節)。私たちにとつて神の都とは、私たちの魂それ自身です。信じる者の内に神は聖霊の流れを与えて下さっています。私たちキリスト者が罪の奴隷の地エジプトから贖い出されたのは、私たち個々の内に神ご自身が宿つて下さるためです(出29の46、ゼカリヤ2の14、1コリ6の19、コロサイ1の27)。これを実現させて下さるのが聖霊なる神であり、このお方こそが信じる者の内に愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制の人格的実を稔らせ、更に魂に挑戦して来る悪魔の誘惑に勝利を与えて下さるのです。「夜明けとともに神は助けをお与えになる。」(6節B)とは、祈りをもって夜の寢床に入ると、神は暗さを追い払う光の力の如く、凡てに先がけて、夜明けを待つようにして、悪の敵を追い払って下さるから、わが内なる都は微動だもすることがないというのです。

C. 全き明け渡しと聖霊充満  
このように私たちの魂に聖霊なる神の躍動的な内住を可能にする秘訣は、信頼と服従とをもって神ご自身に自らの凡てを明け渡すことです。「力を捨てよ、知れ、わたしは神。国々にあがめられ、この地であがめられる。」(11節)とあるみ言葉の実

践にかかっているのです。力を捨てよとは、信仰と云いながら、勝利の生活を律法的に、自力でなしとげようとする自我の野心的なツツパリを捨てよということです。善いことを肉の元気でやりとげようとする熱意それ自体はよいのですが、実際は真実の意味で善を行う力は、生まれながらの人間にはないのです(ロマ7の18、24)。これを可能にして下さるのは神ご自身のみです。ロマ7章に於て二律背反の自己に苦悩したパウロは8章に於ては、「今や、キリストイエスに結ばれている者は罪に定められることはありません。…命をもたらず霊の法則が罪と死との法則からあなたを解放した。」(ロマ8の12)とある通りです。

「復活の主イエスから、「わたしを愛するか」と三度問いかけられたベトロに対して主は、神ご自身への明け渡しを告げられ(ヨハネ21の18)彼は喜んで殉教の死へと進む結実を得ました。我がスタンレージョンズ師も、若くしてインド伝道で行詰まりに陥ったとき、「わたしがあなたの荷を背負ってあげよう」との主の言葉に、「今すぐよろしく」と決断した時彼は聖霊充満、愛の神の助けを頂き自由と喜び、希望と命に満ちて、生涯の凡てをインド民衆の救のために全力投球をもって貫くものとしたのです。栄光主にあれ。ハレルヤ。

# 証 立 アシユラムから受洗へ 函館栄光キリスト教会

山本 定光

私は家に仏壇があり、月に一回はお坊さんがお参りに来るような家の次男として生まれましたが、それでも教会に行ってお祈りをしようと考えたことは何回もありました。特に次女が障害を持って生まれてきた時には家族で教会に行くことも考えましたが、足は教会に向かわなかったのが現実です。

四十歳前半までは研究が中心の仕事をしていましたが、四十代半ばから管理的な立場に変わると人間関係を含めて仕事がうまくいけなくなってきました。そして悪魔にでも魅せられたかのように徐々に他人へのやさしさを失い、自分を変えることなく他人に責任転嫁をし、自己憐憫に浸り、酒で憂さを晴らし、精神的に病んだ生活を続けていました。人間と接することもだんだん嫌になり、

家庭には必要な生活費は入れているのだからそれで十分責任は果たしていると考え、家族への愛などという言葉は死語に近くなりつつありました。そんな中、一つ目の恵みが私にあらたえられました。カトリック教会に行く機会があり、そこで外国人シスターにお会いし、素直に自分が今悩

んでいることをお話しでき、お祈りをしていただいた時には何か心が温まる気持ちがあったことをいまでも忘れません。

二つ目の恵みは、昨年四月に単身赴任で函館に転勤してきましたが、知人の紹介で人生初めて教会の日曜礼拝に参加できたことです。最初は腰掛けでいいかもと考えていました。佐々木先生に教えていただき礼拝・祈祷会へ参加するなかで、九月頃には自分は洗礼を受けイエス様とともに生きたいと考えるようになり、家族に洗礼を受けたいと持ちかけたところ、新興宗教にでも夢中になっているか、との言い方をされていささか憤慨したもののもう少し話し合ってみよう。それまでは、洗礼は待とうと考えました。

三つ目の恵みは、十月十一日・十二日の二日間にわたり函館栄光教会で数年ぶりにミニアシユラムが開催され、東京新生教会の横山義孝先生が来られたことです。当日は、わからないながらも、静聴の時を持つことでイエス様が私たちのすぐそばにいてくださるのを感じながら、み言葉に親しみ、御声を聞き、少数のメンバーでお互いのためにお祈りをおこなうことができました。

私は横山先生と一緒にグループになりましたが、私は洗礼を受けたいと考えているが家族から理解が得

られない、と言いつつ、神様が、よい洗礼の時期と、家族へのとりなしを、お与えくださるようにと、お祈りしていただき、感謝でした。また、それまで私は自分のことは神様に祈りしても、他の人のことを心から祈ったことがなかったの、こんな私でも数年前にカトリック教会でお会いしたシスターのようになれる、と考えると幸せな気持ちになりました。

そして、年が明けて2月中旬に一年間を振りかえり神様から多くの恵みをお与えくださるのに、洗礼を引き延ばすのは望ましくない。家族の理解は後づけになるが、洗礼を受けたいと考えるようになり佐々木先生と相談してイースターの日に洗礼を受けることができました。

いま考えると、アシユラムでは静聴の場所・時間を持てたことはアジア人の私には聖霊の充滿の中で全てをキリスト様にゆだね求めることができる良い機会が与えられました。それから受洗までの約四ヶ月間は、自分が今後本当にキリスト教の信徒として生きていく確信を得るための必要な時間だったと思います。神様が、よい洗礼の時期と、家族へのとりなしを、お与えくださるようにとお祈りして頂いた通りのが実現して神様の恵みに感謝いたします。

## 第18回 日本クリスチャン アシユラム連盟理事会報告

連盟書記 木部 安来



序、本理事会は〇九年八月前理事長大石嗣郎師のご召天後久しぶりに開かれた理事会でした。諸種の都合で一九九六年第十七回以降開催がなくなり、すでに召された理事が数人いる等から横山義孝理事（関東アシユラム委員長）と小生とが召集者となり首題の名称で開催の運びとなった次第です。

とき、会場・二〇一〇年一月十四日（木）十二時～十六時、港区六本木の国際文化会館に於いて開催され

ました。

出席者は臨時の措置として全国理事並各地区代表委員等左記十五名の参加でした。(敬称略)

横山義孝、木部安来、有馬歳弘、安藤脩、飯島紀子(飯島延浩理事夫人)、大石陽子(故大石嗣郎夫人)以上関東、小島十二、辻中昭一、古河治、脇田真一以上関西、鍋倉勲岡山敦彦、鮫島則雄以上九州、佐々木雄次北海・函館、石井寛(連盟主事東京)

当日十二時全国から理事並び委員代表が集合、会場レストランに於いて昼食歓談の時。久しぶりに顔を合わせたお互いが安否を問いつつ楽しい会食の時となりました。

午後一時三十分より二時十五分迄会議室に移動してアシユラムデイブションとしての「静聴の時」を持ちました。

二時三十分から四時三十分までは木部が座長となり、石井寛主事による連盟アシユラムの事務局の諸活動報告、関東、関西、九州、函館の各代表による活動報告などがなされ一同感謝を持って了承しました。

続いて今後の活動についての協議検討にはいり概ね次の事項を議題に活発な意見交換の協議がなされました。

①日本クリスチャンアシユラム連盟存在の意義、目的について②アシユラムの全国的運動の拡充と今後の

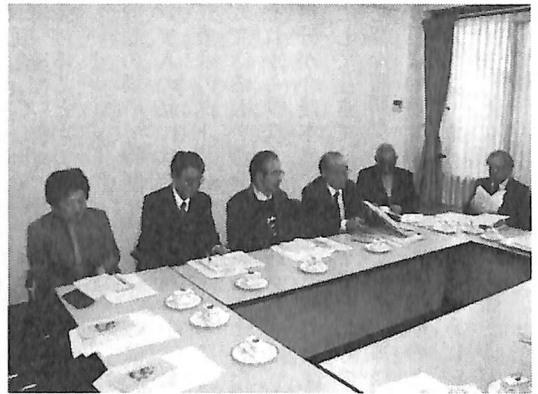
具体的推進、③連盟事業の今後の展望、④連盟規約の検討⑤その他

(一)日本クリスチャンアシユラムの意義についてはクリスチャンアシユラム運動がプロテスタント一五〇年を迎える日本の諸教会の霊的形成と宣教の前進のために計り知れない足跡を残していることを感謝すると共に今後の日本伝道の推進のため、聖霊の恵みを祈り求めつつより一層の拡充を図りたいとの願いを確認しました。

(二)連盟規約の検討

次に連盟規約の検討に入り第一条から第八条までを逐一検討し主として左記の内容が確認されました。

第三条(目的)①本連盟は世界アシユラムの創始者スタンレージョンズ(イェスを主)と仰ぎ、聖書に聴き、祈りに徹し、弟子の生活を推進することを目的とする。②各地のアシユラム委員会の協力によりこの運動の全国的強化をはかる。③海外の同種連合機関との連絡提携。④その他本連盟の目的に適する事業。以上抜粋。



(三)最後に概ね以下の件が決議されました。

①人事について以下の様に全員一致で決定しました。理事長・横山義孝、書記・木部安来、総務・有馬歳弘。会計、会報については総務のもとで今後検討する。

②今後の活動について\*各地アシユラムよりの「分担金」については今後各地区で決める。\*全国理事会を開催するとき理事の交通費については今後検討する。\*各地区へ講師を派遣する場合は費用は連盟が持つ。

鍋倉 勲師の閉会祈祷をもって感謝のうちに理事会は終了しました。

各地区アシユラム予告

●第29回横浜岡村アシユラム

とき 10年7月17日(土)〜18日(日)

ところ 日キ教団横浜岡村教会

助言者 伊藤 節師(ホーリネス 教団牧師)

●第48回関東アシユラム

とき 10年9月13日(月)〜15日(水)

ところ 山崎製パン箱根山荘

助言者 本多英一郎師

●第44回関西アシユラム

とき 10年10月10日(日)〜11日(月)

ところ 御影「母の家ベテル」

助言者 唐渡 弘師

●第45回九州アシユラム

とき 10年11月2日(火)〜3日(水)

ところ 福岡黙想の家

助言者 今村幸文師

●(平針キリスト教会協力 牧師)

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6

池の上キリスト教会内

日本クリスチャン・アシユラム連盟

振替口座 東京〇一〇〇一四四五八